コウノトリ

毎週月曜日更新

カタカタ通信

第７７号

「抱卵を終えて」

２０２３年6月5日

５月25日、ふ化する可能性のある最後の日を1日過ぎたため、空（♂）と花（♀）が抱卵していた卵を回収しました。

採卵時は、私を含めかんちゃんと２人で飼育ケージ内に入ります。事前に奥の池にエサを入れておくと、食いしん坊の空はすぐエサを食べに行きました。２羽が巣から離れている隙に採卵します。全部で3つある卵を一人で持つことはできないため、タッパーにタオルを敷き、転がらないようにして運びます。私たちが巣から離れた頃に空が戻ってきましたが、無事に採卵することができました。採卵をしてすぐの卵はまだ温かかったです。

採卵の様子　空は奥の池でエサを食べてます

回収をした卵は、まず最初に暗い部屋で光を当てて検卵をしました。他の鳥で白い卵の場合は、中が透けて様子が見えやすいです。コウノトリの卵に光を当ててみると、殻が厚いせいかよく見えませんでした。念のため、固いテーブルの上に置き、卵が動くかを確認しましたが動きません。卵の重さも計測し、最後に穴をあけて中身を出します。卵を持った時に軽くゆすると、ぽちゃぽちゃと動く感じがします。卵の中が腐敗していることがわかりました。穴をあけたときに腐敗した液体が飛び出す可能性があるので、ゴーグルを装着しマスクと手袋をつけます。穴をあけると、中身がピューと出てきました。3つとも穴をあけてみると、同じように腐敗していました。無精卵の場合、通常１カ月ほど抱卵しても普通の卵のように保つのですが、何らかの原因で腐敗してしまったものと思います。中身を抜いた卵は、消毒して、今回は石膏を詰めて壊れにくくし、卵の標本にします。出来上がったら以前作った擬卵と見比べてください。卵のサイズについては、次回のお楽しみです。

検卵中　あまり透けなかったです

採卵した卵　少しずつ大きさが違います

天空の里　鴻巣市コウノトリ野生復帰センター

飼育担当：しみじぃ